

初花をしたふ頃より、旅の鷹のかりかりと鳴わたるかりねの一夜に、姫ひな鳥の門に出て袖引笠引夕ぐれの晴いと賑し。周礼にいふ、十里に廬あり、廬に飲食あり、三十里に宿有、宿に路室ありといふは、教業坊の橋のほとりなるべし。／＼
くたびれて宿かる頃や藤の花 ばせを